



左上：全国高専体育大会剣道(団体)・陸上(2種目)優勝 右上：優勝報告のため大牟田市長訪問

左下・右下：高専体育大会壮行会

目 次

電子情報工学科棟竣工	2	全国高専体育大会	17
第29回入学式	4	公開講座	18
第24回卒業証書授与式	5	学生会だより	20
本校にも国際化の波	6	学寮だより	21
新入生オリエンテーション	10	学生表彰・資格試験等合格者	22
研修旅行	12	退官教官挨拶	23
夏期実習	14	新任教職員紹介	24
本校卒業生の大学生活紹介	15	行事予定	26
九州地区高専体育大会	16	編集後記	26

# 電子情報工学科棟竣工



外観北西面

## 電子情報工学科棟の竣工について

事務部長 林 重幸

昨年8月以降工事が進められていた電子情報工学科の学科棟(2,200m<sup>2</sup>、4億3千万円)が完成し、去る4月27日(土)に第2体育館で竣工式が開催された。

当日の式には、来賓の九大工学部長や大牟田、荒尾の両市長をはじめ、学科新設に御協力を戴いた各方面の方々、学科と関係のある中学・高校・情報系企業及び学校関係者などの招待者に、教職員、学生代表を含めた約180人が参加し、盛大に行われた。

本校が、情報化社会の到来に伴い、社会的要請の強いコンピューター技術者の養成を目指し、新学科設置に動き始めたのは、5年前の昭和61年末であった。そして、平成元年度に学科がスタートしてから3年目になる。まだ平成5年度までは学年進行中ではあるものの、学科棟ができ、一応学科としての型

が整ったと云えよう。特に電子情報工学科学生の皆さんにとっては、待望の学舎であり喜ばしいことであろうと思う。今後は、学年進行とともに、教官体制を整えるため定員(10人、現員4人)の確保や、学科設備の充実のための予算を確保し、遂次整備してゆくこととなる。

最後に、新学科の設置は学校内外に大きな影響を与えており、女子学生の急増もその一つである。この設置を契機に本校は女子中学生の注目を集め、元年度以降毎年度、新しく多くの女子学生が高専坂を登校してくるようになり、学生定員の増加と合せて校内各方面でその対応に追われている。目下來年度実現へ努力中の女子寮新設もその一環である。

## 電子情報工学科棟竣工にあたって

電子情報工学科主任 瀬々浩俊

電子情報工学科が新設されて2年後の平成3年3月に待望の電子情報工学科棟が完成し、4月27日には関係者をお招きして竣工式を行うことが出来ました。関係者ならびに御支援いただいた方々に心からお礼申し上げます。

新学科棟は、鉄筋コンクリート5階建、延床面積2223m<sup>2</sup>の白い現代的な建物であります。特徴をあげれば、



竣工披露式典風景

- ・インテリジェント化の基盤として2~5階の各室にイーサネットLANを張っています。
- ・半導体等の素子の試作を行うためのクリーンルームを持っています。
- ・設備の有効利用をはかる為のカードロックシステムを部分的に採用しています。

簡単に各階を紹介します。1階は講義フロアで4~5年の教室と多目的教室があります。2階はソフトウェアフロアで、情報工学演習室(パソコン47台設置)、電子計算機室(ワークステーション設置)、プログラミング室があり、ソフトウェアの教育・研究に使用します。3階は回路・機器フロ

ア、4階は機器・システムフロアで、実験室が5つあり、回路・機器・システムの教育・研究に使用します。5階は素子・材料フロアで、半導体デバイス実験室(クリーンルーム)、電子物性実験室、他2実験室があり、電子素子・材料等の教育・研究に使用します。

電子情報工学科は、今後の情報化社会で必要としているコンピュータ技術者、即ち、ソフトウェアに通じたハードウェア技術者とハードウェアにも強いソフトウェア技術者の養成を目的としています。

又、学校内においては情報系の学科として、学校全体の情報処理教育の牽引車となること、地元に対しても情報処理教育、産業の電子・情報化に対して何らかの役割を果たす必要がある、と考えます。

来年度には電子情報工学科の第1回入学生が4学年になり専門教育が本格化します。

建物は完成しましたが、内容の充実はこれからです。学年進行に合せて、実験機材、教授陣容の充実に努め、先にあげました役割を果たしたいと思っています。

特に電子情報工学科の学生にお願いしておきます。皆さんは現在の先端分野の技術者を目指して入学してきました。設備も新しく、教授陣も新しい。周囲からも期待されています。期待に答えるべくがんばろうではありませんか!

他学科の学生・教職員・関係者の皆さんよろしくお願いします。



半導体デバイス実験室

# 第29回 入学式式辞

平成3年4月9日

校長 竹村 哲男

諸君入学おめでとう。

本日より諸君は有明工業高等専門学校の学生です。高等学校に入学した諸君の学友は、高等学校の生徒ですが、諸君は学生であります。学生とは高等教育機関に入学した者の呼び名であります。従って、諸君の身分証明書は、学生証で、生徒手帳ではありません。工業高等専門学校は、大学と同じく、文部省の高等教育局の管轄下にありますので、その組織、予算は大学と同じであります。先生方も教諭ではなく、教授、助教授、講師、助手の身分であります。大学にひけを取らない優秀な先生がたくさん集めております。

工業高等専門学校の制度は昭和37年に発足した、大学入試競争の弊害を緩和するための新しい技術者養成の制度であります。この制度は米国の工業技術教育者より「日本には優れた技術者養成の制度がある」と賞賛されております。従って諸君は大学受験競争にわざわざされることなく、5年間の一貫教育により、大学卒と同等以上の実力を持った心身共に健全な技術者になることができます。しかしその為には、諸君が学生であることを認識がなければなりません。学生とは自ら学ぶ者であります。高等学校に入学した諸君の学友は、大学受験の目標を持って、よく勉強をします。

何年か前に、米国の教育視察団が日本の高等学校を視察した報告書には、日本の高等学校の生徒が良く勉強することに感心し、これが日本の優秀な技術の礎となっていると分析しております。なお日本の大学の教育については合格点を与えておりません。実際、日本の大学卒業者の基礎学力、語学力は大学受験時に養われたもので、大学での教育の成果ではありません。企業の人から、「高専卒業者の基礎学



力、語学力は大学卒業者に比べ、著しく劣る。」と良く言われます。この原因は受験競争がないために、高専の学生は勉強に多くの時間を割かないとあります。従って大部分の高専卒業生の基礎学力、語学力は、高専受験時のままであるかも知れません。高専の制度は立派な制度であります。競争原理が働かないと、駄目になります。

このために普通高等学校では殆ど落第は無いのですが、高専では留年の制度があり、自ら学ぶ学生の本分を忘れた学生は留年することになります。新入

生の諸君、諸君が入学時より学生であることの重みを充分認識してください。この気持ちがあれば、高専の立派な制度が生かされるものと思います。

また高専を卒業して、さらに高等教育機関で勉強したい人には、大学3年編入の制度

があり、本校では、毎年十数名の卒業生が進学しております。編入学者の多い高専では、40、50人の進学者があります。これらの進学者は全員大学院に進んでおります。高専卒業生のために作られた豊橋、長岡の両技術科学大学があります。

また、大部分の国立大学も、高専卒業生の受け入れ枠を持っております。これらの編入学の制度は、高専卒業生の特権であります。おおいに挑戦してください。

今日より諸君は学生であることを心に刻み、頭脳と身体の訓練、鍛錬に励み、5年間の萩尾台の生活を、生涯のよい思い出になるよう過ごして下さい。

諸君の学生としての出発を祝して式辞といたします。

平成3年4月9日

校長 竹村 哲男

諸君入学おめでとう。

本日より諸君は有明工業高等専門学校の学生です。高等学校に入学した諸君の学友は、高等学校の生徒ですが、諸君は学生であります。学生とは高等教育機関に入学した者の呼び名であります。従って、諸君の身分証明書は、学生証で、生徒手帳ではありません。工業高等専門学校は、大学と同じく、文部省の高等教育局の管轄下にありますので、その組織、予算は大学と同じであります。先生方も教諭ではなく、教授、助教授、講師、助手の身分であります。大学にひけを取らない優秀な先生がたくさん集めております。

工業高等専門学校の制度は昭和37年に発足した、大学入試競争の弊害を緩和するための新しい技術者養成の制度であります。この制度は米国の工業技術教育者より「日本には優れた技術者養成の制度がある」と賞賛されております。従って諸君は大学受験競争にわざわざされることなく、5年間の一貫教育により、大学卒と同等以上の実力を持った心身共に健全な技術者になることができます。しかしその為には、諸君が学生であることを認識がなければなりません。学生とは自ら学ぶ者であります。高等学校に入学した諸君の学友は、大学受験の目標を持って、よく勉強をします。

何年か前に、米国の教育視察団が日本の高等学校を視察した報告書には、日本の高等学校の生徒が良く勉強することに感心し、これが日本の優秀な技術の礎となっていると分析しております。なお日本の大学の教育については合格点を与えておりません。実際、日本の大学卒業者の基礎学力、語学力は大学受験時に養われたもので、大学での教育の成果ではありません。企業の人から、「高専卒業者の基礎学

# 第24回卒業証書授与式告辞

平成3年3月18日

校長 竹村 哲男

平成3年3月18日

文部大臣 井上 裕

本日ここに九州大学工学部評議員、後援会長、同窓会長はじめ多くの御来賓、御家族の方々、教職員ならびに在校生代表の参列のもとに、本校第24回卒業証書授与式を行い、新しい技術の世界に羽ばたく卒業生152名を産業界、官界ならびに大学に送ることになりました。卒業生諸君おめでとう。御家族の皆様にも心から御喜び申し上げます。

諸君の5年間の萩尾台の生活のうちに、大きく世界は動いて参りました。円高、日米貿易・技術摩擦、地球的規模で起こっている社会主義国家の破綻とそれに伴う混乱と紛争、米国の中資本主義の権力の低下、さらに石油をめぐっての湾岸戦争とその終結。諸君は5年間の中に歴史の縮図を見る大変な経験をしたことになります。今後とも各国の力の均衡を巡っての混乱と紛争は相当長く続き、日本の将来も予断を許さない状況にあります。ただ頼りとするところは、日本の技術力のみであります。

技術の進歩は、人々を飢えや貧困から解放し、生活を豊かにし、また人類の長寿をもたらしました。増加する世界の人口に対処するためには、日進月歩の技術の進歩がさらに必要であります。しかし一方では資源を浪費し、環境破壊を進め、精密で強力な危ない兵器も生み出しました。21世紀の技術者となる諸君は、世界の人々の為の技術の進歩を計ると共に、この技術のマイナス面に配慮する必要があります。諸君の時代には、この為の新しい技術が次々に出現するものと思います。諸君の本校で得た知識の寿命は短いものですが、私は、おおらかに育った本校での5年間に蓄えられた諸君のエネルギーが、これらの新しいものへの挑戦の源になることを信じております。

諸君の健康と限りない発展を祈り告辞といたします。

本日、ここに、有明工業高等専門学校の榮えある卒業の式典が挙行されるにあたり、めでたく卒業される諸君に心からお祝い申し上げます。また、この日を迎えるまで諸君をはぐくんでこられた御家族の方々をはじめ、校長、教職員各位の並々ならぬ御労苦に対し、改めて深く敬意を表する次第であります。

今日、我が国の教育水準は国際的にも高く評価され、我が国の経済、社会、文化の発展の原動力ともなっております。今後とも我が国が活力ある文化国家として発展し、国際社会に貢献していくためには、人づくりが何よりも大切であり、特に、科学技術の分野において、創造力に富む、実践的な技術者を育てることが、強く望まれております。

高等専門学校は、制度創設以来既に4半世紀を経過し、約18万人の諸君の先輩が、各分野において活躍しており、産業界はもとより社会的にも高い評価を受けております。

諸君は、本日、学窓を巣立ち、それぞれの志に従い、自らの力によって各分野において活躍されることになりますが、技術革新の時代を担う優れた技術者としての、諸君に対する社会の期待は、極めて大きいものがあります。

もとより、社会の現実は厳しく、今後、幾多の苦難と試練に直面されることと思います。しかし、常に旺盛なる向上の意欲を持ち続け、より研鑽を積んでこそ、諸君の将来が希望に満ちたものとなるのであります。本校で学んだことに自信と誇りを持って、絶えず向上の道を歩まれ、あとに続く後輩諸君に範を示されるとともに、高等専門学校の評価を更に高めしめんことを望んでやみません。

ここに諸君の御卒業を祝し、将来を期待して祝辞といたします。  
(代読・九州大学教授 評議員  
和栗雄太郎)



## 国際化の波と日本人

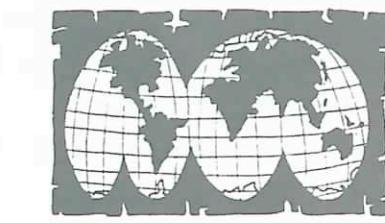
(マレーシア留学生)  
平成3年度入学

3E 林 仲 敏

現在、日本には英語が一番大切な言葉だと思っている人が、多いようです。英語が話せないのを恥ずかしいと思っている人も多いようです。けれども私にとっては、自国の言葉を余り理解出来ないほうがもっと恥ずかしいと思います。外国語が余り上手に話せないのは、恥ずかしくありません。自分がその民族ではないし、その文化をもっていないからです。逆にもし他国の人があなたの国の言葉を尋ねたとき、あなた自身が答えられなかつたら恥ずかしいことだと思います。

現在、日本には、留学生がだんだん増えて来ていることを、よく耳にします。特にアジアからの留学生が非常に多いです。この理由について日本人は、本当のところを余り理解していないように思います。つまり、留学生が日本に来る目標は、日本の技術や文化などの勉強をしたいのだと思っている日本人が多いのではないかでしょうか。もちろん、日本の技術や文化などの勉強は必要なですが、それが最大の目標ではないのです。私達にとっては、正確な日本語を習得することが一番の目標なのです。

日本に留学をしている人は、日本の企業に勤めるつもりでいます。特に、自分の国であるマレーシアにある日本の企業に勤めるつもりならば、日本語が出来ることを要求されるので、日本に留学しなければならないのです。逆に日本での欧米からの留学生



は非常に少ないようです。日本に留学している欧米人のほとんどが日本にある日本企業に勤めるつもりで日本に来ているはずです。欧米人にとって日本の企業に勤めるときは、日本語は、あまり必要がないのだろうかと私は、不思議に思いました。あるアメリカの留学生に聞いてみると、アメリカにある日本の企業では、英語を使っているし、出張して来る日本人でも英語しか話さないので日本の企業に勤めていても日本語を話す必要がないということです。このことから考えてみても、やはり英語は、日本語よりも大切だと思っている日本人が多いのだと思います。

日本語について、私が一番心配なのは、今の若者がだんだん日本語にある言葉を外国語に直して使っています。英語または外国語に替えて使っている言葉が、よりスマートな日本語になると思っている若者が多いことです。しかし、私達留学生から見ると、もっと元からある日本語を使った方がずっと美しい言葉になると思います。だから、無理に外国語に替えて使う必要はないと思います。日本語を学ぼうとして来ている留学生にとって日本本来の日本語をもっと大事にして欲しいと思います。



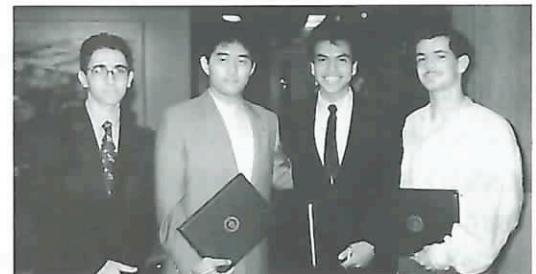
米国政府主催高校生科学  
プログラムに参加して

3I 下川忠弘

私は6月15日から7月2日までの18日間、イリノイ州シカゴ郊外のフェルミ国立加速器研究所で素粒子物理学に関する講義、実験に参加させて頂きました。研究所では、標準モデル・加速器・特殊相対性理論・量子力学・宇宙論について学び、世界最大級の加速器「テバトロン」を用いた「オメガマイナスの磁気モーメント」の測定をしました。講義は進むテンポがとても速く、私にとって難解なものでしたが1週間位経つと半分程度理解できました。その中で私が1番興味を持ったのは、宇宙論でした。講義の中には現在世間を騒がせている「超弦理論」「ビッグバン」などもあり、これらの謎が解明されるなら宇宙や物質、生命の起源が解明されるような気がしました。

アメリカ生活では様々な驚きがありました。その中で最も印象に残るのは、講義中の学生の態度です。アメリカの学生は講義中に何度も質問をするために手を挙げて発言したり、学生同士で素晴らしい討論を開催したりしていました。それらは日本の講義では考えられない光景でした。日本の学生もこの様にあるべきではないかと思いました。

私は今回のプログラムで多くの友達を作ることができ、また物理の世界も少し知ることができたのではないかと思っています。これからは国際化の時代です。そこで他国の人々とどの様な交流をすればよいのか、今回の経験をステップとして、日本人として恥ずかしくない様に、学業に励みたいと思います。



カナダでの勉強を終えて

4A 井上貴明

約1年間のカナダでの生活を無事に終えることができて、まず最初にこの留学を実現させてくれた家族、はげましてくださった先生、友達、それからほかのお世話になったみなさんへ心から感謝したいと思います。

何もかもが初めての体験ばかりでしたが、周りには、いつも人々の温かさを感じることができ、全く不安はありませんでした。しかし、他の多くの国でもそうであるように、カナダには、たくさんの人種の人々が生活しています。したがって普段の生活でも、日本人だからといって特別扱いはされません。もちろん助けが欲しい時にはみんなが本当に親切に助けてくれますが、自主性に対する意識、行動力の高さは周りの人々を見ていると、学生の場合特に強く感じられ、感心させられました。



2つの国の生活、文化の違いを発見し、学ぶということは、もちろん素晴らしいことでしたが、この1年間での何よりの収穫は、たくさんの人とのつながりを得ることができたということです。人々とのふれ合いによって生まれた、きずなと友情が私の留学生活をより素晴らしいものへと導いてくれました。

私の今回の留学生活は終わりましたが、このことから得ることができた経験を生かす努力をするのはこれからですし、私の勉強も始まったばかりです。自分の可能性をどこまで拡げができるのか、これからいつもチャレンジしていきたいです。

## 英語とたばこで損する日本人(国際会議に出席して)

工業化学科 助教授 川瀬 良一

平成3年4月末より約2週間ほど、米国に出張してきました。その時、感じた事を述べてみます。

出張の目的はピツバーグで開催された米国溶射会議に出席し、講演をすることと、ニューヨーク州立大学の研究スタッフと学術交流をすることでした。その会議のロビー及びパーティー会場で異様な光景をよく見るのであります。会議の出席者は約1000名で、その内約50名が日本人ですが、ロビーの灰皿の回りに日本人が集って雑談をしているのです。パーティー会場でも、日本人ばかりが集って会話をしています。米国人とヨーロッパ人は入り交じって交流しています。日ごろあまり会えないせいか、会話が弾んでいるようです。たばこは誰も吸っていません。

このような現象が起る原因を考えてみましょう。国際会議に出席する目的は情報交換もありますが、人的交流も大きな目的です。欧米人はこのような機会を効果的に活用しますが、英語に自信のない日本人はうまく交流ができずに、日本でいつでも会える人と、こんな機会でも話しをしています。国際会議に出席し、発表するぐらいですから、英語はそこそこできる人々なのですが、交流ができません。欧米人は日本人にペラペラの英語を要求してないので、日本人は交流をしようとはしません。中学校から始まる日本の英語教育は何のためにあるのでしょうか。自分の考えを他人に伝え、他人の考えを聞く手段として言語があると思います。学生諸君は、将来、恥を



ニューヨーク大学にて、ハーマン教授と私

かかないため、誤解されないためにも、意思伝達手段としての英語をしっかり身につけて下さい。

次にたばこについてですが、欧米人は次のように考へているようです。私がたばこを吸わないで、率直に話してくれます。たばこは、体に悪く、火事や火傷の危険性もあり、きたなく、臭く、お金がかかるものであります。常識的に考へれば、たばこはまったく有害であるのです。それでも、あえて吸うならば、他人の迷惑にならぬように吸う義務があるのです。米国内ではほとんどの公共の場は禁煙です。レストランも禁煙席と喫煙席に分れ、国際線の飛行機の中でも、喫煙席が後方の数列だけ（後方の座席はやかましくて、あまり良い席ではない）となっているケースも多いのです。企業によっては、就職の時に提出する履歴書に喫煙者かどうかを書かせる場合もあります。学校のトイレなどで喫煙している学生諸君、ニコチン中毒患者になってしまいますよ。校内の灰皿のない所で喫煙している教職員をたまに見ますが、喫煙マナーを守ってもらいたいものです。以上の2つは国際社会における日本の課題ではないでしょうか。

## 国際風工学会議への旅

建築学科 助教授 三宅 昭春

激しい雷雨の中、トロント国際空港に到着。雨がやむのを待つこと30分。機内待機せられてカナダ入国であった。7月8日から12日まで5日間、ロンドンで開かれる第8回国際風工学会議への初参加が目的であった。トロントから南西約200km、ナイアガラの滝から西へ約200kmに位置するロンドンは、人口30万の閑静な小都市であり、地名、道路名、川の名も全て本家イギリスから名が付けられている。

会場となったWestern Ontario大学は、広大な敷地に学校とは思えない重厚な建物が点在した落着いたキャンパスである。また、この大学にはすばらしい風洞施設と優秀な研究スタッフが在籍していることで知られ、風工学を学ぶ者にとって一度は訪問したい所もある。この憧れの施設を見学でき最高の感



トロント市 CNタワーより

激であった。

会議の参加者は32か国370名、論文数は264編であった。その内日本人は82名、63編と遠隔の地であるわが国が主催国さえしのいで抜群に多かった。そして、新たな試みとして、日本人発表者のための通訳者が質疑応答の時だけ付けられた。主催者側が、その必要性を感じたのであろう。連日8時30分から17時までみっちり発表と熱っぽい討論が行われた。

今回の国際会議は私にとって初めての経験であり、会議はもちろんレセプションやパーティ等は、特に印象深いものであった。世界一高いCNタワー(553m)の展望台より大都会トロントの街を眺めつつ(写真)、4年後の次の会議を目ざし、さらに研究を進めなければ決意を新たにした。また、帰国前日には、真夜中、火災報知器の誤作動で避難するというハプニングに巻き込まれるやら、思い出多い11日の短かい旅であった。

## 「まず口を開け」

(国際学会に参加して)

機械工学科 助教授 吉田 正道

7/14~7/19の間、オーストラリア・シドニー市において伝熱関係の国際会議が開催され、私も初めて参加の機会に恵まれて7/13朝、福岡国際空港を後にした。正直なところ英会話に自信がない私の胸の内は不安で一杯であった。その飛行機で、私の席の隣に乗り合わせたのが、フィリピン人の男性であった。いきなり英語で話しかけて来た。シドニーに着くまでは英会話の必要もないだろうから、機内で少し勉強しておこうと英会話の本をひろげていた私は少な

からず慌てた。しかし、その本には「まず口を開け、とにかく話せ！」と書いてあったので、私はかなりメチャクチャな英語で会話を試みてみたが、ある程度までは話せても、間もなく気まずい沈黙が流れ、相手も話しかけてくれなくなる。私は早くも会話力のなさを痛感し、不安な気持ちのままシドニー国際空港に降り立った。その日、会場のNSW大学で、歓迎セッションが催された。世界各国から多数の研究者が集まり歓談が始まったが、私はなかなかその輪に加われなかった。するとある東洋系の青年が私に話しかけてきた。“Where do you come from?”これくらいなら私にもわかる。“I come from Japan”“How about you?”と私は答えた。青年は言った「何だ、日本の方ですか。」その青年も日本人であった。それにしても、私は日本人に見えなかつたのであろうか。しかし私はその青年の積極性は見慣らしきであると思った。「まず口を開け、とにかく話せ！」である。その後、数名の人々と知り合いになりセッションは終了した。翌日から講演発表が始まり、大きなブレッシャーを受けながらも私の発表は無事終了した。次の夜、歓迎ディナーが催されたが、そこで私はまたやさしい思いをした。偉い先生方がジョークを織りませたスピーチをされ、皆大笑いしていたが、私は何がおもしろいのかわからず笑えなかつた。この状況にはつらいものがあった。聞く力の乏しさが身にしみた。まだまだ多くの経験をしたが紙面の都合でこの辺で終わりたい。とにかく貴重な経験をさせてもらった。協力していただいた方々に心から御礼を申し上げたい。余分ではあるが、7月のシドニーは朝夕少々肌寒い程度で、日中はすがすがしく爽快であった。



シドニー・ハーバーよりシドニー市街を望む

# 新入生オリエンテーション

H3.4.30～5.2 国立阿蘇青年の家



## 夢と努力と協力

1M 岡 裕一朗

今回のオリエンテーションは、学校を離れて皆と過ごせるので大変期待していた。しかし、あまり楽しいものではなかった。でも校長先生の講話は、自分のこれから的生活に役立つことや、今までの生活態度を見直さなければならないような言葉ばかりで、私には骨身にしみる話であった。この講話で私が考えたことは、『今の日本で活躍されている技術者は常に前向きに進んで来られたのだ。私達「未来の技術者」を目指す者は何事にもめげず常に前進する努力や、将来に向けて自分の夢をたくさん持てるようになる意欲が必要だ。』ということです。

また、オリエンテーリングで私達は班ごとに得点を競いあったが、私はただの遊びとしてオリエンテーリングをしたのではないと実感した。グループで協力して一つの物事を成しとげる事は、将来仕事をする上でも絶対必要なことであろう。たとえ自分に夢や意欲があっても協力しあえるパートナーがいなければ目標達成は不可能であろう。協力しあえる友達が多ければ多い程、夢は現実のものになりやすいと思う。



## 高専生活の道標

1E 中島 孝明

入所していきなり他団体とのトラブル。代表者を務めていた僕にとって、先が思いやられるスタートとなりました。でも、その思いとはうらはらに、一

つ一つのプログラムを行っていく中で、まわりのみんながしっかりと考え行動してくれたし、僕自身みんなに助けられた事が幾度となくありました。中でも同じ班の人達には、いっしょに挨拶を考えてくれたり、いろんな相談にのってくれたりして本当にうれしかったし、お互に通じ合えて良かったと思います。

先生方からの講話、団長の方からの話では、うなづける事がたくさんあったし、今からの高専生活での道標になったと思います。

全体を通していろんな問題が起きたけど、それよりも学べた事の方が大きかったと思います。それを生かし、これからの高専生活での糧として頑張っていきます。



## 自分の意志で

1I 西山 美由紀

今回の研修では、生活委員という役目についたのだが、この3日間は本当に大変だった。団体生活の厳しさ、時間というものの大切さがよく分かった。1日の生活を時間で区切って行動するというの、小、中学校でも経験したが、その時は先生の言われたとおり行動すればよかった。



しかし、今度の研修では3日間ずっと時計を見ながらの行動で、先生の手はほとんど借りらず、まさに自分との戦いだった。

2日目のオリエンテーリングでは、班が一致団結して一つ一つのポイントを見つけなければならなかつたが、成績は別として、みんなよく協力し合えたと思う。

この研修を終えての感想は、今までたくさんの人の手を借りてきて生活してきたが、この研修で学んだことを少しでも多く取り入れ、できるだけ自分の意志で行動ができるよう今後の生活に役立てていこうと思う。



## 学習に、クラブ活動に

1C 小柳 修二

僕は、新入生オリエンテーションに参加して、団体行動の大切さと難しさ、面白さを知りました。友達や他の団体とも交流を深めるとともに、阿蘇の雄大な大自然でのオリエンテーリングは生涯忘れることができないでしょう。

校長先生方の話も非常にためになり、これから自分が高専でどういうふうに生活し、学習していくかをていねいに教えて下さいました。その時僕は、もう中学校までの生徒ではなく学生なんだと思いました。そして、学生であるなら、大きな好奇心をもち、

忍耐強くやっていかなくてはいけないと思いました。オリエンテーションでの折目正しい生活、団体移動の時の5分前の整列。これはとても大事なことなので、これから的生活の中にも取り入れていきたいと思います。また、学生会会長の太田黒さんもおっしゃっていたように、クラブを5年間やめずに、全国大会で優勝ができるようがんばっていきたいです。



## 5年間のスタート

1A 平木賀子

入学して1か月たった今、私は不安と希望とが入り混じった状態の中でオリエンテーションに参加することができて大変良かったと思う。単なる旅行ではなく、からの高専生活の方向を示し、高専生としての自覚を再び心に誓う場として、この研修は私にとって、5年間のスタートにふさわしいものだったと思う。

また、みんなと生活を共にすることで、心からたよっていける、相談にものってくれる友達がたくさんでき、友情も深まっていったような気がする。

2泊3日という短い間に私は多くのことを知り、学ぶことができた。自己中心的な物事の考え方でなく、他人のことを考え他人を思いやること、そして規則は必ず守る。この二つがこの研修で拾うことのできた大きな宝です。





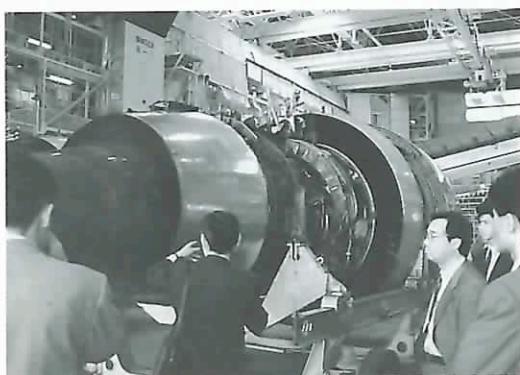
## 卒業後の自分？

4E 岩村英範

我々4Eの学生は、5月8日から11日まで東京での研修旅行に行ってきた。

初日は、一日かけて新幹線で東京へ向ったが、スーツでびしっときめたみんなの顔は一味違つて見え一際輝いていた。東京駅から渋谷にある旅館までのバスの道のりで、皇居や国会議事堂などを見ることができたのは感激だった。また高級車が何台も通り、車好きのみんなのどよめきが絶え間なく続くのにはさすがに驚いた。

2日目には、まず東芝科学館を見学した。高性能ロボットによるコマ芸や超電導電磁石を使ったリニアモーターカーのミニチュア、磁気共鳴イメージング装置(MRI)等、電気の最先端の技術が数多く展示してあり、とても興味深く見ることができた。中でも特に印象に残ったのはハイビジョンテレビで、鮮明極まりない映像と19個のスピーカーによる迫力ある音響のすばらしさにはつくづく感動させられた。次に日本電気トランスマッショングエンジニアリング(株)を訪れたが、まず高度情報化社会にともなう通信



システムに関する説明を受けた後、工場内を見学した。特に注目に値したのが衛星通信システムで、たくさんの人工衛星をここで作りだし、宇宙空間を想定したモデルスペース内で環境試験を行なっているということであった。

3日目の待ちに待った自由行動では、原宿で買い物したり、浅草の雷門や東京ドームなどのTVでしかお目にかかる所に行くことができ、とても感激した。(ちなみにドームの隣の後楽園遊園地はおすすめである)

最終日は、JALの整備工場見学の後飛行機で無事帰り着くことができた。最後に感じた事は、卒業後の自分というものを、考える時がだんだん近づいてきているんだなあとつくづく思った。

## 関西研修旅行記

4A 緒方伸也

5月8日、9時55分。誰も見慣れない服装で有明14号に乗り、新幹線を乗り継いで一路新神戸へと向かった。到着した神戸は生憎の雨。長い坂をのぼり白い異人館に辿りついたけど、何と閉館中。がっかりした後に風見鶏の館をのぞくと傘を持つ人の波……。結局、外観を見ただけの神戸異人館めぐりだった。雨中の神戸を後にバスで奈良へと向かう。

奈良は、法隆寺・薬師寺・唐招提寺・春日大社・東大寺へ。法隆寺は実際に見るのは初めてで、世界最古の木造建築とは少しも感じられない、どっしりした造りが印象的であった。薬師寺の金堂・西塔は彩色鮮やかで、古い造りの東塔と見比べると違和感を感じた。唐招提寺の重量感のある金堂、建立時代



が左右で異なるが違和感さえない東大寺法華堂、そして東大寺大仏殿のスケールの大きさにはびっくりさせられた。疲れて声も出ず、バスで京都へ向かう。

京都では8グループに分れての自由研修で、私は東福寺・泉涌寺・養源寺・京都国立博物館をめぐった。東福寺の附近は本当に静かで観光客もまばらだった。ここでは五百羅漢を安置した東福寺山門、菊の紋章をもつ泉涌寺御座所、更に養源寺本堂の血痕の跡の生きしい「血天井」は今でも忘れられない。

最終日は大阪のOBPTツイン21へと向い、昨日までとは全く違った華やかさを感じた。今日の技術の凄さを思い知らされたが、一方ゴツゴツした冷たさを感じながら、大阪を後にした。



## 「環境」を大切に

4C 平木由紀夫

私達は、5月8日～11日まで、京阪神方面へ研修旅行を行なった。見学先は鐘淵化学工業株式会社・日本科学冶金株式会社・ダイキン工業株式会社の三社の工場だった。

まず、初日に鐘淵化学高砂工場所を訪れた。ここでは、衣食住にかかわるものが造られており、また合成樹脂・食品関係・医薬品などが生産・研究開発されていた。当日は、あいにくの雨で原塩の山を見ることができなかった。できれば手にとって見たかった。

2日目の午前中に、日本科学冶金を訪れた。この会社では、含油軸受・電気接点などが製造されており、実験や概要・製造工程などを見たり聴いたり、また、ビデオによる親切な説明を受け、理解することができた。

その次のダイキン工業では、今何かと話題のフロンガスの製造が行なわれていた。その中には今世紀中に全廃を目標とした特定フロンと、オゾン層の破壊の少ない代替フロンが製造されている。また、工場内にフロンガス回収装置が設置しており、「環境」が考えられていることを感じた。自然環境を考えるよい勉強になった。

2日間の工場見学を終え、3日目は自由行動となり、嵐山・映画村など見て楽しい一日を送った。今回の研修旅行は、学校の講義の中や就職して後、何らかの役に立つといいと思う。本当に貴重な体験だった。

# 夏期実習



## 点検と安全

4M 松尾光泰



## 「観る」のではなく、「見る」こと

4E 猿渡和睦

7月16日より2週間、東京羽田の日本航空の機工場第一構造部品課で実習を行った。この工場は飛行機の着陸装置、昇降装置、制御装置の整備、検査をするところである。ここで私は航空機の先端のレドームと呼ばれる部分の修理作業を実習した。修理とは云うものの実際には殆ど製作と変わらず、ガラス繊維のハニカム材で出来ている材料をうまく張り合わせながら作って行く大変面倒な作業であった。ハニカム材は蜂の巣の様な形状をした非常に軽く、強度の強いものであるが、これを炉で焼く工程以外はすべて手作業であったのには全く驚かされた。人の手でよくあそこまで修理できるものだとつくづく感心させられた。

とにかく何百ものお客様を乗せて空を飛ぶ機械の整備、点検なので、私から見ると「何もそこまでしなくとも……」と思えるくらいの入念さであった。働いている人もみんな明るく、飛行機が本当に好きだからこそ出来る仕事だなと思った。

この実習で得たものは、整備の仕事の仕組みだけでなく、工場の人々、他高専生との会話のなかで、色々教えられるところが多かった。最後に安全第一で、丁寧に指導して頂いた構造部品課の皆さんに心よりお礼申し上げます。



私の夏の企業実習の希望先は最終的にNTT大牟田となった。それまでには幾つかの候補をもっていたのだが、「NTT」といえば、国内でも有数の大企業であり、又地域社会にも深く浸透した、とてもなくなじみ深い企業の一つであろう。又、大卒予定者の希望就職先としてもトップの、いわば「超大型花形企業」なのである。おまけに私にとっては地元もあるので、もう無視する訳にいかなかったのだった。

殆どの者は県外を希望しており（実は私も最後迄関東方面を捨て切れなかった。）、飛行機や列車の時刻などを打ち合わせする者の姿を横目に見ながら、ついに実習初日を迎えた。

いざ社内に入ってみると、会社独特の厳しい雰囲気をひしと感じ、非常に緊張した。私の配属された機械課の方々と初めての挨拶を交わした後、主任の方が交換機やそれに関連するものの概要を説明され、その後機械設備を案内して下さった。そこで強烈に印象に残ったことは、電話機を平常に運転させることにいかにNTTが努力しているか、ということである。その災害対策の為の防災設備には圧倒された。電話加入者の目に見えないところでなされている諸々を目にするにつれ、さすがは日本の情報化社会を担う企業だな、と感心した。

中途半端のまま結びを迎える訳だが、この夏期実習は学生にとって一度きりの会社の“ホンネ”を見るチャンスである。常に前準備を怠らず、積極的に疑問をぶつけ、「観る」のではなく「見る」ことが大切であることを後輩に伝えなくては、と思いつつNTTを後にした。

# 本校卒業生の大学生活紹介



## 充実した高専生活を

豊橋技術科学大学 4年  
(機械工学科・平成元年度卒業)

倉本浩司

「今、あなたは充実した高専生活を送っていますか。」と質問されたら、どう答えますか。僕は有明高専より豊橋技科大へ編入しました。その理由は2つ。ひとつは、「こんな自分が会社に入ってこなせる仕事などあるのだろうか。」と自分に対して物足りなさを感じていたことで、もうひとつは、自分の将来の目標についてもっとゆっくり考えたかったことです。社会に出るのが20歳ではもったいない、もっといろんな事を経験したい、もっと沢山の人と出会いたい、そう思ったのです。

さて、豊橋での生活も2回目の夏を迎えるました。しかし技大での生活は予想以上にハードでした。特に講義時間の多さと進み方の早さ、1時間で数十頁進む講義も多くあり、これには本当にまいってしまいました。たんたんと教科書が説明され、あつという間に試験が始まってしまいます。範囲も高専の時とは比べることができない程広く、1か月前からみんな、夜中まで猛勉強です。単位も点が足りなければ、容赦なく落とされます。本当に、今考えると、3年生の間は試験勉強しかしていなかったような気がします。本当に大変な1年でした。

4年生になんとか進級したのですが、今度は卒業研究のため、毎日、朝8時に登校し、研究室で英語の論文を読んだり、工場で実験装置を作ったり、ゼミの予習や、研究の中間発表をやったり。いつも下宿にもどれるのは真夜中です。

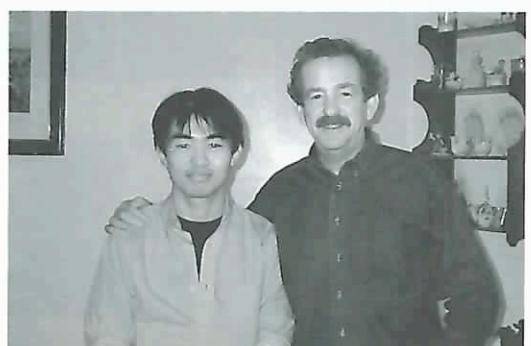
しかし、会社に入ってしまえばできなかった事ができたのも事実です。高専で始めたラグビーをここでも続けています。まだ入学式も終えていない時期からグランドに出て行き、練習に参加させていただきました。そこで出会ったラグビー部員は、本当に

優しさと厳しさをもったいい人達ばかりでした。現在はこのラグビー部の主将として、仲間と一緒に汗を流せる時間は何事にもかえがたいものだと思っています。

また僕は、高専の4年生で行われる工場実習をきっかけに英会話に興味を持ち、ラッキーなことでしめたが、この技大で英国の英語学校を紹介してもらい、1か月間、勉強する機会をいただくことができました。この時も世界中の人に出会い、生活や考え方の違い、そして日本に対する評価について知ることができたし、これもまた幸運な事でしたが、知人の紹介でロンドンの私立の短大に招待され、授業に参加させていただきました。そこでもまた、日本と英国の授業の雰囲気が全く違う、活気にあふれた授業風景で、驚きました。

さて話をもとにもどして。僕にとって有明での5年間は大きな意味があったし、充実していたと思っていたのですが、今考えると、高専時代には、もっと沢山のことがやれたのではないだろうか、それをやるだけの時間も十分にあったのではないかと思うのです。後輩の皆さんに具体的なアドバイスはありません。しかし、もう一度心の中で、お互いに確認したい事があります。僕等はまだ若いという事。毎日、同じことの繰り返しを感じるような生活は、本当にもったいない。「充実した高専生活」を送り、後になって後悔しない方法は、「何をやりたいと思い、それに向かってどれだけ頭を使い、体を動かしたか。」ということ。

がんばりましょう。お互いに！



# 燃えた！つかんだ！青春！

## 第28回九州地区高専体育大会

主管校 熊本電波高専 担当校 大分高専・有明高専

第28回九州地区高専体育大会が、7月19日～21日の3日間にわたり、上記高専の担当で行われました。本校は、第三担当校（担当種目・サッカー、柔道、バレーボール、硬式テニス）で、全教職員が一致して準備に、運営に汗を流したせいもあってか、選手は各種目で大奮闘、大活躍し、12種目中7種目（陸上、剣道、水泳、卓球、バドミントン、サッカー、硬式テニス）が全国大会に駒を進めるという、かつてない好成績を残しました。

主な成績は次のとおりです。

◎熊本電波会場

○陸上競技

女子100M 1位緒方 男子400M 2位田中  
男子4×100M・R 3位(木原・田中・金児・八井)

女子走幅跳 3位岡部

やり投 1位木原 円盤投 3位木原

○軟式庭球 団体3位

○剣道 団体1位 個人戦 3位川島・林

○水泳 総合1位

400M メドレーリレー 1位(山部・片山・永松・小野)

800M 自由形 2位岡本 200M バタフライ 3位神田

200M 自由形 2位小野(大会新)

200M個人メドレー 3位永松 200M背泳 1位山部

100Mバタフライ 2位永松

400M 自由形 1位岡本(大会新)

100M 自由形 1位小野 100M 背泳 1位山部



熱戦の場に

臨時整備員？



ブロックポイント！



つかの間の……



必死の攻防



最高の夏

40℃に耐えた

されど、悔いなし

400Mリレー 1位(永松・岡本・山部・小野) (大会新)

○大分会場

○卓球

女子シングルス 1位森田 3位末吉  
女子ダブルス(オープン戦) 1位(末吉・森田)

○バドミントン

男子シングルス 2位牧嶋  
男子ダブルス 2位(牧嶋・立石) 3位(児玉・城戸)  
女子シングルス 1位平田  
女子ダブルス 1位(石橋・平田)

○有明会場

○サッカー 2位

○柔道 団体2位 軽重量級 3位堺 重量級 3位岩津

○バレーボール 3位

○硬式テニス 団体1位

男子シングルス 2位福山 3位江口  
男子ダブルス 2位(葉玉・江口) 3位(河野・寺尾)  
女子ダブルス(オープン戦) 1位(青山・古賀)

○その他の大会種目

○第18回九州地区高専ハンドボール大会 2位  
(八代高専担当・7/14)

○高松高専会場(8/23～8/24)

○剣道 団体1位

堀口晋市、林 賢吾、川島謙次  
(八尋耕亮、小嶺圭市、高川修一)  
高田祥和

○陸上競技

男子400M 1位 田中昌臣 49秒4  
男子やり投 1位 木原 敦 53m06  
女子100M 2位 緒方華枝 13秒7

○卓球

女子シングルス 3位 森田直子

○その他の大会種目

○第14回全国高専テニス選手権大会  
(久留米高専担当・8/1～8/3)  
団体2位

栄光の

フィナーレ



自己新&V1 陸上の華



トピウオの群

第26回全国高専体育大会は、8月23日～24日の2日間、高松高専の担当で行われました。

心・技・体ともに充実したわが剣道部は、終始積極果敢に闘い、見事15年ぶり4度目の優勝を果たし、“有明ここにあり”の意気を全国に示しました。陸上競技においても、かねて鍛えた力が爆発、男子400M、男子やり投げで、相ついで優勝をものにするという、快挙を成しとげました。

その他の大会種目でも、今年は特に画期的な活躍が目立ちましたが、主な成績は次のとおりです。



みなぎる緊張



忘れない味



悲願のV4/脳裏をよぎるのは…



極限の猛暑に耐え見事2位



マネージャーも汗だく

# 快挙！剣道団体4度目の全国制覇 陸上2種目も優勝

## 第26回全国高専体育大会 担当校 高松高専

第26回全国高専体育大会は、8月23日～24日の2日間、高松高専の担当で行われました。

心・技・体ともに充実したわが剣道部は、終始積極果敢に闘い、見事15年ぶり4度目の優勝を果たし、“有明ここにあり”の意気を全国に示しました。陸上競技においても、かねて鍛えた力が爆発、男子400M、

男子やり投げで、相ついで優勝をものにするという、快挙を成しとげました。

その他の大会種目でも、今年は特に画期的な活躍が目立ちましたが、主な成績は次のとおりです。

○高松高専会場(8/23～8/24)

○剣道 団体1位

堀口晋市、林 賢吾、川島謙次  
(八尋耕亮、小嶺圭市、高川修一)

○陸上競技

男子400M 1位 田中昌臣 49秒4  
男子やり投 1位 木原 敦 53m06  
女子100M 2位 緒方華枝 13秒7

○卓球

女子シングルス 3位 森田直子

○その他の大会種目

○第14回全国高専テニス選手権大会  
(久留米高専担当・8/1～8/3)  
団体2位



全国高専大会でみこと優勝  
有明高専の剣道部と陸上部の2人

剣道団体悲願のV

陸上2選手もみこと優勝

全国大会で晴れの三冠王

有明高専 剣道、陸上400m、やり投げ



送られてきたメダルを胸に

## ◎ 公開講座 ◎

平成3年度本校主催の公開講座が、下記のとおり行われました。今年度は昨年度に比べ2講座が増え、それぞれの講座で熱心な受講風景が見られました。

講座名	対象	期間	定員	主催
パソコン入門講座	中学生	7/22~7/25	40	電気工学科
情報処理領域に向けてのパソコン講座	中学校教諭	7/26	13	電気工学科
楽しい電子工作教室	中学生	7/29~7/30	20	電気工学科
やさしい化学実験講座	中学生	7/31~8/1	20	工業化学科
パソコン操作技術講座	一般	7/29~8/2	40	電子計算機室
CAD入門講座	一般	8/19~8/23	20	機械工学科

### 「パソコン講座」に参加して

松原中学校3年 中村孝浩

僕は、有明工業高等専門学校のパソコン教室へ来て良かったと思いました。最初の時間に視聴覚室に行ってから、黒板でいろいろなBASIC言語を習うとき、詳しく教えてもらえるのでよくわかったし、次の時間は、パソコンのいっぱいある部屋にいって自分でプログラムを考えて、プログラムを打ったりできたからです。

そして、先生たちは、優しいので分からない所を気軽に聞けるし、部屋は涼しいので気持ち良くパソコンをされるからです。

それから、このパソコン教室に来てから、自分でプログラムを打つことができるようになったのですぐうれしかったです。今までは、雑誌にのっているプログラムを打つことでさえ面倒だったのに、今では自分でプログラムを考えて打ったりするほうが楽しいように思えます。



最初は、4日間もあれば十分だろうと思っていたけど、4日間経ってみると短いもので「あと2日間期間が長ければなあ」と心の中で思います。

僕は、元々この有明工業高等専門学校の電気工学科に来たいなあと思っていたけど、この講座に来てからもっと来たくなりました。

だから、明日ぐらいから有明工業高等専門学校の電気工学科を目指して勉強に励もうと思いました。

### 「楽しい電子工作教室」に参加して

三橋中学校3年 篠倉圭

この講座をはじめどんなものだろうと思い不安に思っていたが、来てみると説明なども丁寧でとてもわかりやすく楽しかった。説明では特に抵抗の説明がためになった。そして、金属探知器が完成した時は飛び上がりたいほどの喜びがあった。電気工作の楽しきが、おもしろさが今回の講座を通じて今までよりもっと鮮明になった様に思える。今まででは学校でトランジスターを1つか2つ使用した水位報知器などをつくっていたが、今度はICをつかったものだったのでとても張り合いで楽しかった。これからも、電気工作のおもしろさ楽しさを忘れないように、いろいろな物をつくっていきたいと思う。2日間では少々日程が短かすぎる様に思われて残念であった。これからもこの様な講座がある時は積極的に参加して、電気工作についての知識をますますふやし、自分を高めていきたいと思う。2日間ありがとうございました。

### 「やさしい化学実験講座」に参加して

大和中学校3年 松藤拓之

僕は、有明高専の公開講座に参加して多くのことを学んだと思います。僕がこの講座に参加するまでは、ガスバーナーの使い方すら覚えていませんでした。

この講座に参加する前は普通高校を希望していましたが、この講座に参加してから高専にも通ってみたいという気持ちになりました。そして、行くならば化学科で学びたいと思いました。

それから、この講座に参加してから化学がとっても好きになりました。やはり、教科書で学ぶよりも実際に実験した方が非常に理解できやすいと思いました。

それからこの講座で一番おもしろかったのは、「フラスコの中で膨らむ風船」でした。それから僕は、熱による空気の膨脹、冷えることによっての空気の収縮など気圧を学びました。

この2日間は僕にとって非常に充実した、有意義な時間を過ごせたと思います。



# 学生会だより



## 学生会長として、今、 思うこと

学生会長 5C

太田黒 唐行

わたくし太田黒は、何も人に自慢できるような事をした訳でもなく、模範となるような者でもないの、あまり偉そうに大きな声では言えないのですが、この場を借りて、「高専生の実態」について述べてみたいと思います。

先日、皆さんの協力をうけて「島原救済募金」を行い、御蔭様で、学生側で43,039円集める事ができました。そのとき、私達学生会は3日間、朝、校門付近に立った訳ですが、ある一つの事実に気が付きました。「おはよう」この一言がありません。教務主事の倉橋先生もよく言われることですが、改めて痛感させられました。声をかけても「……」「おは……」。なにか、自分があのケンタッキーのおじいさんのように感じられ、むなしかったのを憶えています。やはり挨拶というものは礼儀の中でも最も大切なものの一つですから、きちんと行き、気持のよい生活を送りたいものです。しかし、悪いことばかりではなく、ある人は袋にいっぱい詰め込んで持ってくれたり、「これ昼飯代ですよ。」と言ひながらも協力してくれたり、そんな場面を見るとなぜか嬉しくなったりもしました。本当に御協力、有難うございました。

話は変わり、今年の高専大会多くの選手が活躍してくれて、好成績を納めることができました。それぞれ忘れ難い思い出もできたと思います。クラブばかりでなく、今年は高専祭もあるので、バンドの人も活躍してくれると思います。どんどん熱中して祭を盛り上げてもらいたいと思います。やはり、何か

に熱中することは素晴らしいことです。いつも思うのですが、高専生はやたらと無気力人間が目立ちます。こういう人達には、何か一つ熱中するものをもって欲しいものです。何かに熱中している人は目の輝きが違います（クサイ）。十年、二十年後に、この青春時代を語るとき、一つでも多く、思い出話ができるようなものにしたいものです。

森田健作ばりのセリフをはいてきましたが、残り少ない青春、おおいにエンジョイしましょう。



## 高専の美化について

整備局 4A

坂本 美鈴

我校に部外者が入ったとき、残念ながら『きれいな学校』だと感じる人は少ないでしょう。私達もわが母校ながら『きれいな学校』と思うことは、ほとんどありません。しかし、どうしてそんなに有明高専はきたないのでしょうか。一つは土足だということがあります、これは、ちょっと気を付けて泥を落して校内に入ればよい訳で、理由にはなりません。

要するに、一人一人の学生が、自分の出したゴミに責任さえ持てば、残りのゴミなんてたかが知れています。たったそれだけのことでかなりの違いがでると思います。また、最近では、ゴミ箱の燃えるゴミと燃えないゴミの表示が、行方をくらましたり、曲げられていたりすることが、しばしばあります。自分の中につくる不満をゴミ箱などにぶつけるようなまねはしないで、有明高専の美化に少しづかり協力して欲しいものです。みなさん、御協力お願いします。自分の学校に誇りを持ちましょう。

# 学寮だより

## 充実した寮生活を

寮務主事 塚本祐右

「よい想い出をつくって下さい」これは卒業していく先輩の寮生が、決まって残していく言葉であります。1年生の時は先輩の厳しい指導もあり、クラブ活動に、勉強に一生懸命で、時には先輩の我が家ままもきかされて、後で振り返っても、よくぞやったという生活をしながら、2年生になると急に楽になります。そのうちにずるけてきて、クラブ活動にも精を出さなくなり、かといって勉強しているふうでもなく、友達としゃべって夜更しをして、なんとなく1日を終るような生活をしていないかどうか。このような自堕落な生活はその時は楽であっても、よい想い出にはならないことを肝に銘じていて欲しい。時には何かに熱中して勉強が多少おろそかになることはあってもいいと思うが、皆にとって大切な青春を「ただなんとなく」過ごすことのないようにして欲しい。高専大会そして、夏休みも終わり、今度は勉強する番だと思うが、また気持ちを引き締めて充実した生活をおくるよう願っています。

## 自分たちの寮は自分たちで

寮長 5M 中川英貴

新入生のみなさんは、入寮して、はや5か月がすぎましたが、もう寮生活に慣れましたか。寮生活では家庭では学べない様々なことがあると思いますがどうでしょうか。私が寮長になって、二つの事を言いました。一つは「楽しい寮にしよう」、もう一つは「自分たちの手で、寮をよくしていこう」といいました。ここ数年で、寮は本当に良くなってきましたが、一つ気になることがあります。それは、言われたことはきちんとするが、言われないことはできないということです。もっと一人一人が寮は自分たちのものである、寮をよくしていこうという気持ちを

もってほしいと思います。そして、もっともっと岱明寮がよくなるよう、がんばりましょう。

## 寮生球技大会

体育局長 4A 鎌田章一

平成3年4月20日、少々天気は心配されたものの、当日は澄み切った青空が広がり無事開会することができました。4Eの芹川君の力強い選手宣誓のあと各競技が始められ、各チームとも出身地の名誉をかけて、熱い戦いがくり広げされました。ソフトボールでは福岡C、バレーでは熊本、卓球では八女・久留米が優勝し、総合では北九州が優勝しました。今年の特徴は、佐賀・長崎がなくなり福岡Cの新チームができその他6チームで競うことになったことで、佐賀、長崎の人には悪いと思いましたが人数が少ないのでそうせざるをえませんでした。来年は復活できるよう後輩を勧誘してください。今年は自分としては大きな仕事を任されて焦っていた部分もありましたが、無事成功することができ、これも寮生全員の協力のおかげだと思います。来年もこの調子でがんばりましょう。

## 岱明寮に入寮して

1C 五島昭一郎

寮に入って5か月が経ち、寮生活にもだいぶ慣れました。最初のうちは点呼や食堂での食事、入浴など1日の生活の全てが緊張の連続。家庭から長く離れて生活するのは初めての事で、5月の連休がとても待ちどおしく感じられました。しかし、寮に入ることによって友達も結構早くできました。他のクラスの人とも話すことができて緊張もとけていました。同室の先輩も優しくて、寮生活の注意や心がけなど、良い指導をしてもらい、時には笑い話などして笑わせてくれます。最初のうちは通学生に憧れましたが、今は通学生より得をした気持ちです。しかし、緊張のゆるみから気がぬけて注意を受けることが何度かありました。これからもまた、気を引き締め直して、明日からの寮生活を送りたいと思います。

## 学生表彰・資格試験等合格者

### 《卒業生表彰》

#### 成績優秀者

学科	氏名	学科	氏名
M	後藤 英	C	竹島 幸一
E	宮本 徹	A	巻口 義人

#### 5年間皆勤者

学科	氏名	学科	氏名
M	福田 雅孝	A	南 森 直樹
C	松野 誠志	A	森 万年
E	古賀 誠也	A	森 崇 保
A	中村 敏宏	A	矢富 勝

#### 5年間精勤者

学科	氏名	学科	氏名	学科	氏名	学科	氏名
M	小笠原幸雄	C	花田 憲児	M	木下 宏章	C	古賀 勇司
	柿塚 真実		本田 博敬		小島 博二		古川 勝也
	塚本 克則		宮崎 康通		宮田 健多		巻口 義人
	古賀 智之		宮田 健多		富松 利夫		松尾 浩之
	猿渡 哲也		宮本 徹		秋吉 賢一		三浦 雅善
	柴田 清隆		山下 直正		井上 智明		宮崎 忠勝
	高見 等		吉田 正		甲斐田 洋		
	田上 泰明		C		川添 健一		

### 《在校生表彰》

#### 1年間皆勤者

学科	氏名	学科	氏名	学科	氏名	学科	氏名	学科	氏名
1M	芦塚 裕二	家永 浩史	2C	原田 義広	河野 雅一	3C	別府 聖	石口 裕子	森田 誠
	荒木 正親	門本 和久	2A	小林 洋	河野 光貴	1I	森田 直子	上村 宗正	鎌田 章一
	奥園 剛	藏田 純也		野崎 達志	後藤 誠也		古賀 寛範	矢治 賢一	北原 健
	田中英一朗	興膳 修一		北原 正揮	立野 勝巳		西村 慎一	長 昌幸	中村 吉晴
	田中耕太郎	合屋 佐藤 誠	3M	品川 俊喜	寺本 和生	1M	野中 成継	別府 賢治	山田 健治
	富安 昌洋	繩田 英俊		徳永 直	長岡 信行		菊池 千波留	秋山 伸一	雪野 智行
	中島 勇也	水城 英雄		4C	伊藤 正徳		梅原 薫	井浦 貴史	吉田 一弘
	稻岡 剛	道山 久			江上 美智子		内藤 和弘	奥村 貴之	阿部 満朗
	浦川 強志	元村 進一			井原 渉		豊福 博文	木下 敦士	川本 康之
	大淵 健兒	安井 光洋			川口 弘樹		内藤 和弘	白石 誠	小島 寛史
	大淵 正晃	安武 正憲			上瀧 裕司		三宅めぐみ	橋本 哲司	近藤 孝洋
	加茂 桂司	城戸 幸信			坂上 孝好		宮島 憲靖	深松 潤之	猿渡 研一
	小宮 満明	猿渡 和睦			3E		雪野 竹志	田中あずさ	高田 高
	佐伯 孝治	石丸 隆一					上津原英樹	土井 律子	中川 英貴
	佐藤 晃	上原 泰臣					金田 和紀	永松 祐二	中川 岳志
	猿渡 康隆	小畠 博靖					坂本 光弘	吉田 弘光	和田 善郎
	只隈 正和	古賀 奨					高田 敏雄	森 悠承	
	田村 貴志	作本 和彦					吉田 浩二		
	塚本 誠二	篠原 篤史					津留 正功		
	堤 晋太郎	原田 耕次					井口 良二	赤星 幸弘	
	内藤 秀和	平塚 貴紀					2M	大園 真樹	河野 将樹
	中島 繁	福田 剛						酒井 琴美	川部 正重
	野口 浩二	龍野 義栄						田村 貴雄	鎌倉 裕
	林 孝一	植松 繁						古賀 朋宏	内田 知洋
	林田 輝治	河野 恵司						江口 隆二	川野 功
	藤原 亮	木下 聰						永瀬 昌彦	西村 勝久
	丸林 智昭	杉内 智						溝上 利香	弘島 晃
	古川 浩章	田中 智						1A	岳志 克之
	松永 司	内田 晃弘						岩村 清敏	森 鳴
	宮本 雄司	前川 雅純							
	山田 智美	牧嶋 隆光							
	小田 幸雄	福田 龍野							
	金縄 大樹	古賀 繁							
	神代 昌住	瀧崎 隆司							
	古賀 恵子	田中 良幸							
	小宮 淳	西村 周二							
	濱地 将司	西村 昌晃							
	2I	4E							

平成3年度

#### 第1回情報処理技術者試験合格者

学科	氏名
第1種 4 E	坂上 孝好
第2種 3 I	下川 忠弘
〃 3 I	尋木 信一
〃 4 M	宮原 正剛

#### 第21回工業英語検定試験合格者

学科	氏名
4 級 3 I	日巻 一美
〃 3 I	古賀 真由美
〃 3 I	黒田 浩司
〃 3 I	古賀 修二

## 退官教官挨拶



### 筑紫路の畔より 萩尾台の皆さんへ

荒木 三知夫

去る3月末、皆さんに御挨拶お別れして、はや4か月が経過しようとしています。7月末の暑中、私の勤務する短大では期末試験の最中にあり、私自身環境の急変に疲れを覚えるこの頃です。さて、私が有明高専へ着任した昭和40年は、前任校の三池工高が夏の甲子園において栄冠を勝ち得た年であります。この年の物価はコーヒー一杯80円、身近な事では、高専ゆきバスは「萩尾まで」と遠い昔日となりました。この年、機械、電気工学科の教官室は工業化学棟に間借りし、M、E棟残部の建設が始まり、半導体化が見え始めた電子系の実験の計画、準備を始めました。(私は今、NHKスペシャル電子立国日本の自叙伝・電卓戦争を観終わったところです。このTVは同時期から始まる日本の電子技術の発展期の物語です。皆さんには是非観て頂きたいと思ってます。)その後、諸先生の御努力により全ての実験室、施設が立派に整備され最新の機器も導入されていますが技術革新の最中にあり今後益々の充実を期待しています。

昭和43年第1期の卒業生が社会に進出して以来、多くの人が広い分野で活躍している事は度々この誌上でも紹介されており頗もしく、これほど嬉しい事はありません。

去る4月、卒業生の一人から同窓会報「萩尾坂」の私の記事を読んだと云う葉書が届きました。彼は月に1度訪米し磁気ヘッドを米国の技術者に紹介する仕事をしていると云う事で、この葉書を成田空港の待合室で書いており、高専で学んだ事が全て役立っている気がこの頃していますと結んでおり、この、上なく嬉しく思いました。

この度、退官後僅かな期間ではありますが高専を外部から観ることになり、種々の批判はありますが

高専における教育に高い評価が与えられるべきものであるとの信念が益々強くなっています。

学生諸君、この恵まれた自然と教育環境の中でどうか受動的ではなく能動的な、悔いのない青春をおくり、社会に巣立って頂きたいと念願しています。

平成3年7月



### 高専での 英語を担当して

池田 茂

有明高専で教職員のみなさまと学生諸君とは5年間を過ごしました。いろいろと教えていただき、感謝で一杯です。勉学で学生諸君と関係の深い分野では、英語科のL L教育をあれこれ考えたこと、コンピューターを使ってのC A I教育のプログラムを試みたこと、構文を中心とする英文読解を演習時に取り扱ったこと、これらのことことが高専ならではの勉強となり、大変ありがたいことありました。貴重な勉強をさせていただきました。高専での5年間の英語学習に一貫性ある特色が生かせた一連のテキストが編めるところまで到達することが出来ればこれほど嬉しいことはないと思っていましたが、その途中、というよりは緒についたばかりのところで止まってしまったのが残念です。しかし、L LでもC A Iでも構文読解でも、目標をしぼった学習という視点から英語を扱うという貴重な体験を私に与えてくれることになりました。

さて、学生諸君は在学中も卒業後も、さまざま形で英語という言語・道具と出会いのありますから、効率よく学習し、消費した労力と時間に見合うだけのものを、いや、そんな消極的な姿勢ではなく、諸君の将来の英語力のゆたかな伸びを保証して余るほどのがっちりした基礎を、今のこの学生時代に固めていただきたいと願っています。諸君の健闘を祈ります。



## 大牟田から長崎へ

(退任の挨拶に代えて)

宮本 達夫

長い梅雨が終ったと思えばこの猛暑です。有明高専の皆様お元気でしょうか。また今年の高専大会の成績はいかがだったでしょうか?野球部が頑張っていたのは新聞で拝見しました。久留米高専に勝つてよかったです。その調子で夏のロボットコンテストも頑張って下さい。今年こそは全国制覇を祈っています。

今年はいつにもなく長い梅雨がありました。ひどく暑い夏のようです。雲仙岳まで何を血迷ったか、200年ぶりに怒っています。何かとてつもない天変地異の前触れではないでしょうか?

有明高専は自分の教員人生におけるはじめての学校であり、同僚の先生方や学生諸君が与えてくれたアドバイスやヒントは自分の教育生活上および研究生活上いずれも自分に転機を与えてくれた学校として思い出深いキャンパスになると思います。大変有難うございました。

さて、自分は今年4月から長崎の活水女子短期大学に移りましたが、急な転勤であったため学生諸君には挨拶も出来ずすみませんでした。先日用事で有明に参りました時に何人かの学生諸君に会えました。有明を離れてまだ4か月でしたが、人に対してもキャンパスの風情に対しても懐かしい気持ちになりました。長崎は自分にとって父祖の地であり、また自分の研究テーマもある街です。その意味から自分にとって非常に意味のある街であるといえます。有明ではハード系の科目が多く、何かと戸惑いました。また講義を受けている学生は全員女子です(当たり前か)。自分は女性の扱い方に慣れていないので、ほんと困りました。現在は前期の試験も終わり、オランダ坂を登る学生の姿もまばらです。代わって観光客の人々を多く見かけます。今年も暑い夏になります。有明高専の皆様の今後の発展をお祈りしつつ退任の挨拶とさせていただきます。お元気で。



## ▶新任教職員紹介◀



一般科講師 中本 潔

この春、縁あり隣の荒尾高校から赴任してきました。それまで30年間、熊本県下の多良木高、熊本高、菊池高、荒尾高と4校に勤めてきました。高専は、普通の高校と違い、専攻の学科が当初より決っているせいか、伸び伸びと何か落ちつきみたいなものが感じられる気がします。各自が腰を据えてひたすら精進しているせいでもあります。所謂普通の高校は、短い3か年で、様々な学科を学びながら、自己の能力、興味関心に応じて進路決定を迫られるので非常に慌しいです。その点、高専は十分な時間を活用し研鑽を積むことが出来るのではないかと思います。それではどうぞ宜しくお願ひいたします。



マラソン3年生

電気工学科助手 塚本 俊介

今春、電気の技官から教官となった塚本です。僕は趣味でマラソンを始め、この9月で3年目を迎えます。始めた頃は「高専に入学したつもりで5年間は止めんゾ」と約束しました。1年生でフル1回と30km1回、2年生でフル2回とハーフ2回の大会に出ました。今年の4月から“中だるみ”状態で3年生を迎えるようですが、これではいけないと「来年6月の100kmマラソンに出よう」と新しい目標を設定しました。高専2・3年生諸君で、もし“中だるみ”的な人があれば早く脱出しよう。そのためには新しい“目標”を搜すことです。



はじめまして

建築学科助手 松岡 高弘

平成3年4月1日付で建築学科助手に採用される以前は3年間滋賀県教育委員会で文化財建造物の保存修理の仕事一大工さんや職人さんと一緒に古いお寺や神社などを修理する仕事に携わっておりました。

さて現在、2A・4A・5Aで製図や建築史の授業を担当し、クラブは弓道部の顧問を一應しています。

本校での生活も早5か月がたち、今までに学校全般に対して感じたことは簡単に言うと「ぬるま湯の生活」であり、「のんびりした生活」であります。そしてそれは、悪い意味での過ごしやすい環境だと思います。



学生課学生係長

松本 正比己

昨2年、私は九州大学で高専からの編入学試験に携わっていましたが、高専出身学生の素直さと、入学後の成績の伸びに、新鮮な驚きを覚えたものです。

それは、とりもなおさず、高専がすばらしい教育を行っている、ということだと思います。

こういう環境のなかで学べる学生諸君は、恵まれています。就職・進学のいずれを志すにしろ、それぞれの努力に応じた道が開かれているからです。

私も、学生諸君が実りのある5年の学園生活を送ることができるよう、微力ながらお手伝いさせていただきたいと思います。



会計課事務官

西原 克明

私は、4月に熊本大学医学部附属病院より転任してまいりました。熊大病院では、看護婦などから事故や火傷で入院された患者さんの話を聞き、事故や火傷の恐ろしさ、また、ICUでは、「今日の朝まで元気やったのに」と泣いているお母さんの姿を見、事故の突然さを知りました。私は、直接、何も出来ませんが少しでも役に立てばと思い働きました。

ここ有明高専でも少しでも多く、出来るだけ多く役に立てるよう頑張りたいと思います。



会計課技官

棚町 猛仕

所感の一端ですが、以前ある研修で、学校における教育などをソフトとすれば、施設はハード面での仕事であるという意味のことを聴いたことがあります。なるほどなと思いました。

学校施設の最適環境をプランし、創造していくというのです。それはまた技術者としての醍醐味です。それにあたる者として、更に技術を磨き勉強(なかなかできないのですが)していきたいと思います。此処、施設係へ転任して約5か月がたちました。みなさんのおかげで、なんとか慣れてきた次第です。



これからもよろしくお願い致します。

工業化学科 技官

幸後壽彦

4月に奈良工業高等専門学校から赴任してきました。出身は行橋市で、福岡県へは高校卒業以来、19

年ぶりに帰ってきました。

奈良には当然ながら海がなく、こちらでは大好きな魚釣が出来るので喜んでいます。ただ、スキー場が遠くなるのが多少残念です。

奈良高専に在職中は、化学の技官を始めとして、図書係、学生係、寮務係、学生係、庶務係の係員を経て、ここでは工業化学科の技官として勤務しています。

技官としては10年ぶりの仕事となり、みなさんにご迷惑もお掛けするかも分かりませんが、頑張ってやっていきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。



電気工学科 技官

小宮洋志

この4月から企業より、ここ有明高専に勤務しております。高専前の坂を初めて登って来た時には、もっと平地に学校を建てていれば良かったのにと、少々、学生が可哀想な気になりましたが、ここへ来て、電子情報工学科棟の屋上に上った時には、そんな気持は飛んでしまったくらい綺麗な景色で、良い環境だなと思わず納得してしまいました。

然し、そういう気持とは裏腹に、学校といった特殊な職場で自分が上手くやっていくだろうかという不安もありましたが、学内の皆さんに親切な方々ばかりだったので、一先ず安心しました。

もう既に4ヶ月が経ち、学校にも大分慣れてきましたが、未々、不慣れな点が沢山あります。

私も、一生懸命頑張っていきたいと思いますので今後共、宜しく御願い致します。



電子情報工学科 技官

中園裕晴

この4月に有明高専に来て、4か月程たとうとしています。

私は、鹿児島工科専門学校を卒業してここにきました。学生時代は、先生の話を聞いてそれをノートに取って予習復習をきちんとやってさえいれば、物事はだいたい順調にいきました。

しかし、電子情報の技官となって学生にものを教えるのは大変です。相手が、どの程度理解しているかというのもまるで見当がつきません。

ともかく、すべてにおいて初めてであり、未熟であるのでどうかよろしくお願いします。

# ◆◆◆ 行事予定 ◆◆◆

- |              |              |               |              |
|--------------|--------------|---------------|--------------|
| ● 9月25日      | 体育記録会        | ● 12月7日       | 体育系クラブリーダー研修 |
| ● 10月7日～12日  | 前期末試験        | ● 12月18日～24日  | 後期中間試験       |
| ● 10月16日     | 後期授業開始       | ● 12月25日～1月7日 | 冬季休業(閉寮)     |
| ● 10月19日／26日 | 入試説明会        | ● 1月8日        | 授業開始         |
| ● 10月29日     | 学生会選挙        | ● 1月25日       | 吹奏楽部定期演奏会    |
| ● 11月3日～4日   | 高専祭          | ● 1月26日       | 寮生球技大会       |
| ● 11月16日     | 学生会指導者研修     | ● 2月1日        | 寮生送別行事       |
| ● 11月16日～21日 | 九州地区高専ラグビー大会 | ● 2月12日～17日   | 5年生学年末試験     |
| ● 11月29日     | 冬季球技大会       | ● 2月23日       | 入学試験         |
| ● 11月30日     | 寮祭           | ● 3月4日～9日     | 学年末試験        |
| ● 12月3日      | 寮生消火訓練       | ● 3月18日       | 卒業式          |



外観正面見上げ



電子情報工学科棟

バルコニーからの夜景

## 編集後記

- 「有明高専だよりは読みにくい」との多くの声に応え、委員会は、これまでとは内容・スタイルを変えた高専だよりの作成を行う、という企画をもちました。
- しかし、いざ発行の運びになってみると、なかなか当初の計画どおりにはいかないものです。
- 投稿や座談会方式などをとり入れた興味あるものにしようとの企画は、今回は実現することができませんでした。
- 今回の教訓を生かし、アンケート（折り込みのアンケートには非ご協力ください。）の結果を分析し、次号は今号よりいささかも内容のあるものにしたい、と念願しております。

**有明高専だより 第76号**  
平成3年9月1日

編集  
有明高専だより編集委員会  
発行  
有明工業高等専門学校  
〒836 大牟田市東萩尾町150  
TEL 0944-53-1011(代)